



久成

官武通紀

九

標示  
卷九

一 古不司代始末  
一 久世大和守殿始末

U 5  
6419  
8



門 5  
號 6419  
卷 8



早稲田大學  
第 25.6.5  
藏 入 乘



官武通紀卷九

目次

多可司代始末

中一



西下所之浪人其多人数甚多其大坂色古  
多矣一暴論を唱ふ路あり一松  
王城地：新干戈也 宸襟也松  
く多美所一玉之力を存す中 以  
ん所抱交言く之身多代司代酒井  
多枝中松 広懐御指の松の内之連白



寫法... 詩

一 莫白樣... 寫

一 臨... 寫

一 臨... 寫

一 臨... 寫

中三

一 系... 抄

中四

凡說



中五

凡說

中六

一 系... 抄

中七

凡說

中八

一 酒... 抄

一 系... 抄

一 系... 抄

中九

幼定格多却之所多行 组与力加纳  
幼定格多却之所多行 组与力加纳

中十

酒井多快也殿 冥东古之用石以修  
酒井多快也殿 冥东古之用石以修

中十一

酒井多快也殿 冥东古之用石以修  
酒井多快也殿 冥东古之用石以修

中十二

多師 子 官 折

中十三

同新

中十四

同新

中十五

同新

中十六

同新 中十七

同 廿十七

酒井 延徳 殿 様 へ 役 々 人 松 平 伯 耆 殿  
御 用 代 々 御 用 代 々 御 用 代 々

廿十八

酒井 延徳 殿 様 へ

廿十九

同 廿

廿二十

酒井 延徳 殿 様 へ

廿二十一

酒井 延徳 殿 様 へ

御 用 代 々 御 用 代 々

同 廿二

酒井 修 郎 殿 様 へ 御 用 代 々

御 用 代 々

廿二十三

酒井 延徳 殿 様 へ 御 用 代 々

御 用 代 々 御 用 代 々

廿二十四

酒井 延徳 殿 様 へ 御 用 代 々

今午自寫

廿二日

酒井雅樂院殿系部之儀備以  
作并  
新向之儀并此日人分以  
指如  
何至寫

附

三附札

廿二十五

同新之儀并此日人分以  
指如  
何至寫

廿二十六

京師之學抄

廿二十七

同說

廿二十八

同說

廿二十九

同說

廿三十

京師之學抄

久世大和書殿始末

中一

月説

中二

日説

中三

師上京に作身且々令有借に作身に

由々々々々々々々

中四

日説中持人録物に作身に々々々々

中五

江戸中持人録物に

中六

日説

中七

師上京に中持人録物に中持人録物に

日説中持人録物に

中八

日説中持人録物に中持人録物に

流中持人録物に

廿九

凡說

廿十

探索牛字

廿一

同對

廿二

同對

廿三

以上京本系統

廿四

江戶

廿五

以病字

廿六

凡說

廿七

廿八

以後

廿九



以没之... 代... 作...  
物... 中... 代

十九

以... 中... 作...  
如... 上... 作...  
之... 作...

附

以... 作...  
作... 作...

二十

永... 作...  
作... 作...

友武子紀卷九

佛不司代始末

中一

西小節 一人其多人数之厚大坂  
 色上多事 暴少編を唱は流子に於  
 王城地之節 干戈恒 宸襟に於  
 其くは美河一玉に力を尽す中  
 此安んは物交ふくは身酒井  
 美林寺殿廣情御等上は抄如  
 内多建白字

友武子紀卷九  
 佛不司代始末  
 中一



才三格 王城地部平戈惱 宸德の老松  
新可自代汲去勅の行くも美州一不の力を  
有自論 法亦の最長に在るを指揮しし殊に  
下仕のり 以安んじ抱ふこと極易に在り  
招仕をせむは是令 以新し以爲る殿東の候に  
以のり女に取水入る表之中 之の候に  
其令佛為心佛を稱上り由汲限り 内中上正の  
こと

四月十日

廣陽一位殿

實名

坊城大納言殿

別身之毎 酒井之候事より 而後迄中城の爲  
少のり入る事なむ新事は法之より後候に  
定より 在りては 以のり候事 爲る中 入且  
其の付る自給のり 爲るにて 新事にて 以のり  
其の付る自給のり 爲るにて 新事にて 以のり  
其の付る自給のり 爲るにて 新事にて 以のり  
其の付る自給のり 爲るにて 新事にて 以のり

四月十日

才二

浪人之名押

以のり

作如...  
...

了日... 武... 此... 和泉上  
世上... 依... 推...  
...

四月廿日

系...抄

四月十日... 和泉... 中... 火... 烟... 中... 火... 千... 珠... 山... 陣... 織... 汗... 个... 除... 刀... 推...



一 以法事多結し、亦、何、何、姓、名、用、向、延、原、  
 亦、中、之、以、強、富、以、之、誠、中、亦、十、拂、多、意、  
 下、之、  
 此、等、情、事、亦、亦、應、  
 一 西、月、代、元、氣、所、在、戦、士、數、多、人、武、志、強、好、結、成、  
 中、人、皆、又、少、人、仕、  
 一 四、月、廿、三、日、大、小、砲、具、を、破、壞、九、右、所、  
 中、骨、亦、  
 一 中、骨、亦、  
 一 中、骨、亦、

一 四、月、廿、三、日、大、小、砲、具、を、破、壞、九、右、所、  
 中、骨、亦、

一 一、  
 一 二、  
 一 三、  
 一 四、  
 一 五、  
 一 六、  
 一 七、  
 一 八、  
 一 九、  
 一 十、

四月

中子

凡説

一 五、十、  
 一 六、  
 一 七、  
 一 八、  
 一 九、  
 一 十、







合上御丹内三飯袋夫々道具有年一 軽きもの  
三条橋車止り物也

此石方西司代方飯二條比隣近き園居申出  
り申す中候二條比隣近き何内旋拂  
やも知れぬ了り申す此比隣近き  
持を給ひ下り申す又此方西司代  
是元分士多候に振子大繩動上下を  
申す此方西司代申す此方西司代  
申す此方西司代申す此方西司代  
申す此方西司代申す此方西司代

古書より振子申す

名小所申す

薩州薩長州薩長作合に候も申す此方西司代  
大人候より京濱御寄申す申す此方西司代  
申す此方西司代申す此方西司代  
甲冑着申す此方西司代申す此方西司代  
此方西司代申す此方西司代申す此方西司代  
此方西司代申す此方西司代申す此方西司代  
此方西司代申す此方西司代申す此方西司代  
此方西司代申す此方西司代申す此方西司代

分て海用を仕奉りて... 酒井家  
分て海用を仕奉りて... 酒井家  
分て海用を仕奉りて... 酒井家

中七

凡説

一 此交 物使古原郷... 物使  
一 此交 物使古原郷... 物使  
一 此交 物使古原郷... 物使

一 此交 物使古原郷... 物使  
一 此交 物使古原郷... 物使  
一 此交 物使古原郷... 物使

中八

酒井家... 酒井家  
酒井家... 酒井家  
酒井家... 酒井家

一 此交 物使古原郷... 物使

一 此交 物使古原郷... 物使  
一 此交 物使古原郷... 物使  
一 此交 物使古原郷... 物使

振仕方子身年成以秋と秋

四月廿五日

志中連名

酒井三枝子振

中九

以部定格系款之所多行組与力加納

録系之長年最同敷以 作如之書封官

分所り子身格系之方り得る是中後下成

以上

四月廿五日

志中連名

酒井三枝子振

分所り

以部定格系款町多行組

与力

加納録系之長

分所り格系以 清和向之町節以沙佐治身在

何多振下成り

中十

酒井三枝子振 官東以町石以 作如

心身年成

酒井三枝子振 以用之長年成 以身年成身在

方江... 此... 達... 上

六月四日

月十一

酒井... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...



... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

六月十四日

酒井... 疾... 痛... 身... 化... 發...

月十二

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

... 疾... 痛... 身... 化... 發...

如常候し候集 肉は後迄石七りとも 係  
如常候し候集 肉は後迄石七りとも 係  
如常候し候集 肉は後迄石七りとも 係  
如常候し候集 肉は後迄石七りとも 係  
如常候し候集 肉は後迄石七りとも 係

申十三

同敷

如常候し候集 肉は後迄石七りとも 係

病等二十門下敷 上右等九日交至る事也  
近川未起程日限古事 申一也去七日用入三浦  
七三島江戶系向又九日如常酒井等江三人等  
下等系表る事候 病等十交至る事也  
隱居仕候内係し候事 申一也去七日用入三浦  
不怪し候 病等加し候事 申一也去七日用入三浦  
物入事 申一也去七日用入三浦  
病等十交至る事也 申一也去七日用入三浦  
子事 申一也去七日用入三浦  
病等十交至る事也 申一也去七日用入三浦







中興中 洞張中 子 三

但右月流其儀ふり候多考なるに記す

中 十七

酒井 其後之殿に後之免 松平伯耆守殿

此司代に 作 其由に申す

酒井 其後之殿

本村 川 如也

思ふに 此後之免 常 贈 其由に申す

大板 之 代

松平 伯耆守

此司代に 作 其由に申す

中 十八

此司代に 作 其由に申す

松平伯耆守 其後之殿 此司代に 作 其由に申す

此司代に 作 其由に申す

此司代に 作 其由に申す

此司代に 作 其由に申す

此司代に 作 其由に申す

此司代に 作 其由に申す

此司代に 作 其由に申す

中... 新部... 療...

... 命...

... 上...

... 代...

... 中...

七月廿四日

中十九

凡說

史津... 七月... 中... 代... 作... 命... 上... 代... 中...

了(七)支(一)作(一)不(一)惟

中 二十

江(一)生(一)字(一)折

松平伯耆守後去月下旬  
自(一)取(一)申(一)信(一)而(一)成(一)以(一)次  
申(一)于(一)守(一)也(一)其(一)事(一)係(一)以(一)用(一)之(一)也(一)中(一)平(一)以(一)申(一)也  
作(一)如(一)之(一)時(一)在(一)日(一)投(一)也(一)申(一)信(一)也(一)右(一)伯(一)耆(一)守(一)殿(一)之(一)宗  
親(一)不(一)向(一)之(一)也(一)其(一)抄(一)也(一)以(一)後(一)發(一)之(一)也(一)申(一)信(一)也(一)其(一)宗  
也(一)其(一)風(一)唱(一)仕(一)也(一)

乙未月十五日

中 二十一

酒井美穂守殿  
其(一)事(一)係(一)以(一)用(一)之(一)也(一)中(一)平(一)以(一)申(一)也  
作(一)如(一)之(一)時(一)在(一)日(一)投(一)也(一)申(一)信(一)也(一)右(一)伯(一)耆(一)守(一)殿(一)之(一)宗  
親(一)不(一)向(一)之(一)也(一)其(一)抄(一)也(一)以(一)後(一)發(一)之(一)也(一)申(一)信(一)也(一)其(一)宗  
也(一)其(一)風(一)唱(一)仕(一)也(一)

酒井修郎主事殿  
其(一)事(一)係(一)以(一)用(一)之(一)也(一)中(一)平(一)以(一)申(一)也  
作(一)如(一)之(一)時(一)在(一)日(一)投(一)也(一)申(一)信(一)也(一)右(一)伯(一)耆(一)守(一)殿(一)之(一)宗  
親(一)不(一)向(一)之(一)也(一)其(一)抄(一)也(一)以(一)後(一)發(一)之(一)也(一)申(一)信(一)也(一)其(一)宗  
也(一)其(一)風(一)唱(一)仕(一)也(一)

小倉新(左衛門)

其(一)事(一)係(一)以(一)用(一)之(一)也(一)中(一)平(一)以(一)申(一)也  
作(一)如(一)之(一)時(一)在(一)日(一)投(一)也(一)申(一)信(一)也(一)右(一)伯(一)耆(一)守(一)殿(一)之(一)宗  
親(一)不(一)向(一)之(一)也(一)其(一)抄(一)也(一)以(一)後(一)發(一)之(一)也(一)申(一)信(一)也(一)其(一)宗  
也(一)其(一)風(一)唱(一)仕(一)也(一)

酒井修理吉氏代  
四年正月廿

其父又其授書多  
其父又其授書多  
其父又其授書多  
其父又其授書多

但丁君其父其父其父  
其父其父其父其父  
其父其父其父其父  
其父其父其父其父

廿二十二

酒井其授書多  
其父其父其父其父

神田其授書多

其父其父其父其父  
其父其父其父其父  
其父其父其父其父  
其父其父其父其父

況至也... 執居... 作...

十一月廿日

他酒井... 節中... 名由... 事... 日... 連層...

廿二日

酒井... 結...

...

此交... 之... 乃... 人...

五月十一日

...



上り月分... 時... 酒井... 書... 中... 不... 書... 上

五月廿日

酒井雅楽

書... 札

初... 酒井... 時... 書... 札

廿二

酒井雅楽

書... 札

酒井雅楽... 書... 札... 酒井雅楽... 書... 札... 酒井雅楽... 書... 札...

此本中を記す

二月廿四日

以考中を記す

酒井 多穂を記す

但所記の条條に記す依り

廿二十六

京脚 多穂を記す

六月十日酒井 多穂 京脚 多穂 記す  
上下共餘程之人数之中心許ふ人数呼と也  
初縁  
又入る一之人数を借交り指約條に記す

ふ回を記す 京脚 多穂 記す  
日如本滿ち借交り  
る指約條に記す 京脚 多穂 記す  
ふ用人の人数に記す  
又入る一之人数を借交り指約條に記す  
中中二日凡二日 京脚 多穂 記す  
又入る一之人数を借交り指約條に記す  
又入る一之人数を借交り指約條に記す  
又入る一之人数を借交り指約條に記す  
又入る一之人数を借交り指約條に記す  
又入る一之人数を借交り指約條に記す







其の三病年子今凡唱存

十月

久世大和書殿始末

中一

凡説

高田津和久世書殿此書上京... 成而... 乃有押... 舟不... 中... 其... 多...

清涼居士云 一内を以て同志を以て流氷電氣系を以て  
とらふべし也

一 十六日和多の屋敷に居るが如く上り何れに就く  
今条等の時分は此の如く近來の如く 表裏少くも  
此の流氷の流氷系 内へ 既識を以て近來の  
在り如く流氷の 物表を以て流氷を以て別置  
此の流氷の今条等の時分は此の如く近來の如く  
此の流氷の今条等の時分は此の如く近來の如く  
此の流氷の今条等の時分は此の如く近來の如く  
此の流氷の今条等の時分は此の如く近來の如く

一 廿三日宿次早子御を以て 作是の流氷東海

中山の如く如く 一内を以て同志を以て流氷電氣系を以て  
とらふべし也

四月

廿二

五月十七日以前は此の流氷の如く 一内を以て同志を以て流氷電氣系を以て  
とらふべし也

二六  
五月

五月

廿二

以上系在 作身回之各持信也 作身也

等之 三平信也

人等之信也

久世出和也

系款今也 作身也 信也 上系也 作身

信 上三三

如日人

此系上系也 作身也 信也 上系也 作身

信也 作身也 信也 上系也 作身

信也 作身也 信也 上系也 作身

如持之用 信也 信也 上系也 作身

如日人

此系上系也 作身也 信也 上系也 作身

信也 作身也 信也 上系也 作身

信也 作身也 信也 上系也 作身

信也 作身也 信也 上系也 作身

如持回信也 信也 上系也 作身

中記

同刻由書紙抽

作身心之修持

系於心

久世古和

一 涉相織 一 金戴拾投

一 以時板十一 涉

如涉同之之上 以子自之

五月十五日

中子

江戶學堂抄

久世廣此處上系之用此書 物從之

有可差才以有人之申也 此處之申以上系其成也

其一格按水之類 此處之申也 此處之申也

其有書唱中之同廣之上系之用也 作身心之修持

有人之三十石之如踏之申也 此處之申也

其有書此處之上系之用也 此處之申也

其一 此處之申也 此處之申也

一 此處之申也 此處之申也

一 此處之申也 此處之申也

一 此處之申也 此處之申也

忍び難く年々大に病入致し何れも中上なる  
久世侯之上より今一十五日頃迄は  
多病候物にて是れより其唱中は左の如く  
十九日迄は是れと唱中は

中六

回數

其の病状は今日十六日夕迄は中一は病  
子細と云ふ事は病状は中一は病  
程中と云ふ事は病状は中一は病  
程中と云ふ事は病状は中一は病

向ふ病状は今日十六日夕迄は中一は病  
子細と云ふ事は病状は中一は病  
程中と云ふ事は病状は中一は病  
程中と云ふ事は病状は中一は病

中七

以上より中一は病状は中一は病  
程中と云ふ事は病状は中一は病  
程中と云ふ事は病状は中一は病  
程中と云ふ事は病状は中一は病









以年去り 三上 妙年 古 不 所 之 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
凡 之 志 亦 不 少

中月十一

回教

久世 侯 氏 痛 幸 之 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
以上 衆 知 仰 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
作 後 子 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
以上 衆 知 仰 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
為 此 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
義 足 以 後 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少

亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
以上 衆 知 仰 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
作 後 子 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
以上 衆 知 仰 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
為 此 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少  
義 足 以 後 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少

五月廿八日

中月十二

回教

久世 侯 氏 痛 幸 之 志 亦 不 少 海 之 志 亦 不 少

原書古語... 作後集... 唱... 文... 暇... 足... 心... 子... 以... 物...

月多... 入... 中... 生... 以... 幸... 中...

子月

中十一

以上京等以先作付の事等

大和守殿 病等一頁百取指子 尋同列 共三十四日  
同取之取に及 序格の事 多様自動 是等  
色法掛り 和ふ之利 取振等 上京 以用之先  
但少く 五月廿七日 之仲 和ふ 書殿 之取 在  
取作之取に也

中十日

京/官折

大和守殿 病等一頁百取指子 尋同列 共三十四日  
取之取に也

五月廿七日

中十日

大和守殿 病等一頁百取指子 尋同列 共三十四日  
取之取に也

大和守殿

三浦 徳助

大和守殿 病等一頁百取指子 尋同列 共三十四日  
取之取に也

五月廿八日

十月廿六日

同院

此處久世廣上より後言及故分の作後ハ二三条  
付及終向より中を以て病等ハ此院引  
花ハ中ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸  
評議等 和室様ハ津姫殿御一 思  
喜ハ中ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸  
久世廣上中ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸  
此大振ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸  
久世廣上

久世廣上ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸

多分ハ後ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸  
唱中ハ中ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸  
ハ中ハ中ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸  
ハ中ハ中ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸  
ハ中ハ中ハ二三条ハ井俣殿を職中殿 幸

十月十七

久世大和守久代  
牧中 潜崎中

病者之身之役多端之... 後又... 病者之身之役多端之... 後又... 病者之身之役多端之... 後又...

六月二日

十八

後多端之身之役... 上京... 後多端之身之役... 上京... 後多端之身之役... 上京...

久世大和病者... 身之役... 上京... 久世大和病者... 身之役... 上京... 久世大和病者... 身之役... 上京...

六月二日

酒井美使書

上京中...

第十九

新得中... 增一系石... 作... 所

多橋通吉殿... 作... 所

久吉古和子名代

少中... 名代

新得中... 作... 所

作... 所

作... 所

作... 所

大和子名子

同 通 吉

名代

大和子名子

又大利子... 作... 所

以新得... 作... 所

以新得... 作... 所

以新得... 作... 所

以新得... 作... 所



後古月身清中何如也此月身相事動在屋中紙

六月十六日

中二十

永執在因以減地作身以瓦出端通之殿

上作通以了之身守

久世通去身代

福田甲非之也

之乃又去和了勅役中不來以中身之

外身作身行也之也之終以井作掃取取積

死之依身年款上終以有以得之身

以政是也其在立治身以京所分以作身之身

以以國備運經之身以

以身之上身身之沒系身之身神助助之身

了以身身之身身之身身之身身之身

以內身身之身身之身身之身身之身

十月廿日

左武海記卷九終

13.

13

13

13

片寄是也

13

13

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

